

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372800215		
法人名	社会福祉法人 長寿会		
事業所名	グループホームみどり		
所在地	愛知県碧南市油湊町3丁目50番地		
自己評価作成日	平成24年9月18日	評価結果市町村受理日	平成24年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html">http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番の5 かえでビル2階
訪問調査日	平成24年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の気持ちを重視し、安心して過ごしてもらえるように支援しています。</li> <li>・本人・家族との信頼関係を大切にしています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>本人や家族との信頼関係を大切に、本人の気持ちを重視し安心して穏やかに過ごせる工夫が随所に見られる。運営推進会議では家族の参加が多く、家族の意見や要望、地域の情報等が事業所の運営に反映されている。玄関の戸は解放され、職員の見守りの中で、はつらつとした103歳の入居者をはじめそれぞれが、自分らしい暮らしをしている。防災訓練では、行政の防災訓練と連動させ、組織内でもテーマを持って訓練を継続している。地域との協力関係を模索し、地域の区長を通じて働きかけを行っている。また、「グループホームみどり」の紹介資料を地域に回覧しホームを知ってもらおう努力をしている。目標達成計画が職員の協力のもと着実に実行されホームの質の向上につながっている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践につながるよう努力している。	理念の共有と実践については、目標達成計画にも盛り込まれ、職員会議等で具体的な話し合いがされ、サービスの向上につなげる努力をしている。5年を経過した事業所理念を、来年度はみんなで見直すことを考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	西端地区の回覧板にGHの写真付き資料を掲載させていただき、まずはGHがどういった場所ですといった活動をしているのか等を理解していただくようにした。公民館祭りに製作品を出品したり、習字の展覧会に出展したり、蓮如祭りに行ったり、少しずつ地域とふれ合う機会は増えている。	地域との日常的交流は少ないが、グループホームの紹介資料を地域に回覧し、ホームを知ってもらう努力をしている。公民館祭りには、ちぎり絵を出品し、初めて書道展にも出展をした。作品を通してのふれあいや地区のお祭り、福祉フォーラムに参加すること等で、少しずつ地域とのふれあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	十分ではないが、推進会議を通じて認知症の方の行動やトラブル、その解決方法の成功例を報告説明している。また民生委員に推進会議に参加してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて報告・意見交換などを行い、本人家族の意向に添えるようサービス提供に活かしている。また、ご家族様と利用者様のふれあいを実施し、ご家族同士の親交の場となった。	2ヶ月に1回、入居者や家族、行政、地区の民生委員、職員が出席し、ホームの報告、意見や情報交換をしサービスの向上に活かしている。家族の出席が多く、運営推進会議のあと、家族会を開いたり、親睦会を兼ねた食事会を開いている。次回の内容を知らせている。	地域との交流を深めていくためにも、地域代表として地区長の参加依頼を検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回、運営推進会議にも参加して頂くなど、GHの取り組みの実情を伝えている。	認定調査代行で市を訪れた際情報交換をしたり、市主催の研修会や連絡会にも出席している。運営推進会議での意見やアドバイスもサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は苑内の教育に参加することで、身体拘束について勉強・理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在、玄関は開錠だけでなく、天気の良い日は開けっ放しの時もある。	身体拘束廃止委員会があり、研修や勉強会を通じて「拘束」についての理解を深めている。情報交換や意見交換を重ね防止に努めている。玄関は開放されており、民家の雰囲気を感じさせる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修に参加し職員の資質向上に努めている。また、虐待がないよう、それが見過ごされないよう職員同士が意識を高めてチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を参考にし、関係職員と連携を取り、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書など一文一文ご家族様と確認・納得していただきながら、間違いのないよう丁寧に説明している。また不安や疑問点に関しても、分かりやすいよう説明し、納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お問い合わせや苦情の窓口があり、そのニーズを会議などで検討し運営に反映している。	家族からは運営推進会議や家族ふれあい会、問い合わせ等を通して、利用者からは日頃の生活記録「気づきノート」や「気づきシート」を活用し随時対応したり、月1回のグループ会議で検討し運営に反映をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見を交換できる環境にある。また月に1回のGH会議においても全職員で意見の交換や提案、要望、問題点を話し合う機会があり、運営に反映している。	日常業務の中で常に意見交換ができる職場環境にある。月1回のグループホーム会議やリーダー会、さらには年2回の人事効果等の個別面談が有り意見や要望を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の話に耳を傾け、少しでも向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員とコミュニケーションノートを通じて、指導・相談に応じるなど育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の開催する研修会・勉強会に定期的に参加し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が気軽に要望が言えるような雰囲気を作り、安心して暮らせるような信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望を可能な限り聞き入れ、小まめに連絡をすることを約束し、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様の話をしっかり聞き、間違えのない、支援を提供できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には利用者様に頼り、お互いに助け合っているという環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にGHでの利用者様の様子を報告し、身近に感じてもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来てくれた際には、個室にて気兼ねなくお話していただけるよう心がけている。買い物の際に馴染みの場所に寄り寄りして関係が途切れないよう努めている。	スーパーへ食材購入に順番に行っている。時には入居時の生活歴等を活用して声かけを行い、買い物の際に馴染みの場所に立ち寄りしている。来訪者にも配慮して関係維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士がうまく支えあい生活出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々声を掛けるなどして継続的な関係を保てるように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の希望、要望を取り入れるよう、利用者様本位に考え支援している。	日常のケアの中で要望を聴きとったり、行動や表情などから推し量っている。これらは職員で共有するため、漏れなく個別の「気づきノート」に記録している。家族からの意見や提案も記録して本人の希望や要望に応えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを把握し、継続できるよう努力はしているが、困難な事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状把握し、心身状態の変化の把握には特に気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、気付きシートを使用し職員から本人の介護の現状、課題やアイデアを集め反映させ、ご家族様にも同意を得ている。	3ヶ月ごとに介護計画を見直している。作成時には「気づきシート」を使用し、本人の意向や介護の現状、課題を検討する中で、出された意見やアイデアを活かしている。家族の意見も聞いて作成し、説明をして同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々のケア実践の様子や結果などを記入し、また、申し送りをする事で職員間で情報を共有している。その情報をふまえ気付きシートを全職員が作成することで介護計画に反映される。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の体調やADLは変化する。そういった際にはGH会議の議題にかけ、本人に適切なケアを話し合いできる範囲内で柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の区長や民生委員より情報を頂き、その催しなどに参加、作品を出展することによりやりがいを持って豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時の対応を考え、大半のご利用者様は施設の専属医である医師に受診している。	入居時に希望を確認しているが、緊急時等の対応等を考え、大半がホームの提携医としている。定期的な往診はないが、月に1回家族が定期受診に付き添い、主治医の意見や情報を事業所に提供してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違った様子が見られたら、すぐに併設している特養の看護師に相談し指示を受け、主治医の先生と連携して健康管理が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会を行うと共に、病院関係者とも連絡を取り合い、適切な対応ができるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や関係者と話し合いながら方針を共有し、ご家族様の希望があれば併設している特養入所などの支援をしている。	入居時に事業所の基本方針の説明があり家族を含めて確認している。介護計画が変更される毎に家族と話し合いながら方針を共有している。目安としてホームの構造上、入居者が歩くことが困難となった時、施設への入所等の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の勉強会は不定期ではあるが、全職員参加で行って備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練は定期的に行っており、夜間、夜勤者一人での想定も行っている。地域との協力体制は、この地区の区長を通じて働きかけを行っている。	市主催の「地域防災教室」への参加を継続している。年に2回、それぞれテーマを持って防災訓練を行っている。避難経路の廊下に、非常持ち出し物品として木製の救急箱が置かれている。	非常持ち出し物品は、内容の検討とともに、避難の際に壊れたり危険のないよう、持ちやすく安全な形状に工夫されることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言葉を使わない優しい声掛けを行い、自尊心を傷つけないようにしている。	入居者に同じ対応が出来るよう言葉かけに留意し、親しみ易く優しい声かけをしている。呼称は苗字ではなく、名前で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が何でも言えるような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが出来るよう利用者様の希望を取り入れた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みでおしゃれを楽しんでもらっている。夏祭り、初釜ではお化粧をし、浴衣や着物を着ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事出来るよう会話に配慮し、出来るだけ全量食べていただけるよう食事も配慮している。また、もやしの根取り、お皿拭きやお盆拭きといった片付けも手伝ってもらえている。	食事の準備や後片付け、食器拭きなど個々の能力に応じた作業を職員と共に行なっている。懐かしい歌もBGMとして流れる中、職員も一緒に談笑しながら楽しく食卓を囲んでいる。喫食状況を辛抱強く見守る等、細やかな支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を把握し、栄養状態や体調管理の把握に努めているが、メニューに偏りがある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日中数回のおうがいをを行い、口腔内を清潔に保てるようにしている。寝る前には義歯の洗浄・消毒をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をまめに行い、失禁の回数を減らしたり、歩行・立位が不安定だが、排泄の一連の動作が出来る方は見守りを行い、自立に向けた支援を行っている。	排泄記録をつけ、その人のパターンを把握し、その人に応じた個別の声かけを工夫している。排泄一連の動作の見守りと援助で自立支援につなげる努力をしている。紙パンツが取れるところまでは行かないが失禁頻度は減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を管理しており、個々の状況に合わせて散歩へ出かけたり、バナナジュースを飲んでもらったりして、予防に取り組んでいる。それでも改善されない方には服薬を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には毎日、14時からお風呂に入ることになっている。入りたくない、と1日おきに入られる方もいる。職員や利用者様の都合で難しい時もある。	浴槽は二人用の桧造りで木の香りが漂い、家庭的で懐かしい雰囲気が感じられる。毎日入浴を実施しており、菖蒲湯など季節感を取りいれたり、一番風呂や気の合う同士での入浴等を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	精神的不安定な時には話を聞いたり、寄り添う事で安心してもらい、入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下、投薬支援・症状の変化の観察を行っており、月1回の家族による受診時には症状を伝え、家族、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	多くの利用者様が皆と仲良く会話をしたり、歌を唄うことが楽しみの一つになっている。役割としては個人差があり上手く出来ていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	しょうぶ苑、ハイウェイオアシス、蓮如祭り、初詣、公民館祭り、習字の展覧会などグループホーム全体の外出はしている。	季節に応じた外出や祭り、行事等グループホーム全体の外出支援は積極的に行われている。日常的な外出や本人の思いに添った外出支援が少ない。	短時間でも戸外に出て外気にふれる機会や本人の思いに添った外出支援を、家族やボランティア、地域の人の協力を得ながら出かける工夫を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族である為、お金の所持はしていない。必要時、ご家族よりお金をもらってきてもらい買物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける事はあるが、手紙を出した事がない。今年は年賀状を書いてもらう予定である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の体調を考え、必要時にはエアコンを使用したり、障子を閉めて日の光を和らげている。季節ごとに飾り付けを変えて、四季を感じられるようにしている。共用空間や居室も不快でないよう毎日掃除をおこなっている。	リビングとキッチンが一体の大部屋であるが、ソファやテーブルの配置等が工夫され、居心地のよい空間となっている。障子を通したやわらかな光や天井から吊るされた季節の飾り物、利用者の作品の展示、生けられた草花が和やかな雰囲気を出している。毎日の清掃では入居者も出来ることを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要な時には、各居室にてゆっくりしてもらえるようにしている。リビングは自由席で気の合う者同士で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを使用し、なるべくこれまでの生活が維持できるようにしていただき、自身で製作された装飾品を飾るなど工夫をしている。	利用者の馴染みの調度品や品物が置かれ、これまでの生活が少しでも継続できるよう配慮されている。自身の作品や中には人生訓なども掲示し、自分の空間としている。掃除もモップかけなどできることを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間では歩行に不安がある方は、トイレに近い席に座っていただく等配慮している。また、各部屋には名前を大きな字で書き、自室が分かるようにし、トイレには手すりを設置して自立した生活が出来るよう支援している。		